

報 告

連携セミナー「電動車椅子で巡る世界一周報告会～旅の魅力編～」に参加して

石井 美愛

神戸学院大学 総合リハビリテーション学部 社会リハビリテーション学科

1. はじめに

2025年10月25日（土）、アンカー神戸とオンラインにてリハ工学協会関西支部と全国頸髄損傷者連絡会との連携セミナー「電動車椅子で巡る世界一周報告会～旅の魅力編～」が開催されました。今年5月に開催された準備編に続き、全国頸髄損傷者連絡会事務局長・宮野秀樹氏が、電動車椅子で世界一周旅行をした際のリアルな体験や苦労話、海外のバリアフリー事情などについて話してくださいました。

2. セミナーを聴講して

今回は「旅の魅力編」ということでしたが、楽しかったことや良かったことだけではなくマイナス面や、日本と海外を比べてどちらがどのように良かったかななども聞くことができました。海外のバリアフリー事情として道がガタガタであったり、古いインフラが残っていたりすることを知りました。また、同じ国でも首都や観光地はある程度整備されているが、それ以外の地方では未整備が多いということで、国と国との格差だけではなく、国の中でも格差が生まれていることがわかりました。ほかにも、エレベーターは日本のほとんどのホテルに設置されていますが、海外では設置されていないホテルもあるそうです。このように施設や設備などの物理的な面では日本は優れていると言えますが、心理的な面では海外のほうが優れているそうです。この話を聞いて、日本はもっと心理的なバリアフリーが進めば、より障害者に優しい国になると思いました。日本人には「おもいやり」

や「助け合い」の精神があるはずです。これらを活かし、困っている人がいたら助けるのが当たり前という人ばかりになればいいなと思います。社会福祉を学ぶ学生として、さまざまな状況で挑戦する人をたくさん知り、視野を広げていくことが大切であると思いました。



図1 講演中の宮野氏

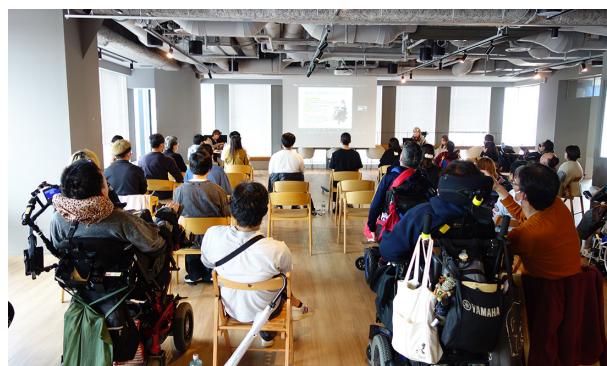


図2 講演の様子

3. おわりに

今回の講演は、参加者数77名のうち、車椅子ユーザーが14名（介助者12名）と、多くの車椅子ユーザーが参加されたことがわかりました。障害の違いや有無を問わず、障害者が旅することに高い関心が示されたセミナーでした。電動車椅子で世界一周するという宮野氏の行動から、多くの人があきらめない気持ちを持つことの大切さを学びました。